

人は街で、 ヒグマは森で。

～すみ分けによる安全・安心な暮らしを目指して～
さっぽろヒグマ基本計画2023 概要版



札幌市

2026年9月一部改定

さっぽろヒグマ基本計画って？

札幌市は、200万人近い人口を抱える大都市でありながら、豊かな自然に恵まれており、そこには数多くの動植物が生息・生育しています。

ヒグマも例外ではなく、札幌市の奥山には、古くからヒグマが生息しています。

しかし、近年、市街地やその周辺部でのヒグマの出没が増加しています。

そこで札幌市では、市民の皆さんの安全・安心を確保するために、目指す姿や施策の方向性などをまとめた「さっぽろヒグマ基本計画2023」を策定しました。

どうしたら人とヒグマがともに暮らしていけるのか、皆さんも一緒に考え、行動していきましょう。

ヒグマってどんな動物？

大きさ



体長

オス:約2.0m
メス:約1.5m

体重

オス:約150~400kg
メス:約100~200kg



生まれたては
約400g

食べ物

冬

冬は食べ物が
手に入りづらいので、
冬眠をします。



春



ミズバショウ



ザゼンソウ

主に草本を食べます。
フキ、セリ科(エゾニュウ、アマニュウなど)
ザゼンソウ、ミズバショウ、
イラクサ など



秋



ドングリ



ヨクワ
(サルナシ)



クルミ

クルミ、ドングリ、サルナシ、
ヤマブドウといった木の实などの
食べ物をたくさん食べます。



夏



アリ



ヤマグチ

草本のほか、ヤマグチなどの
木の实やアリも食べます。

※食べ物が少なく、
ヒグマによる農作物の
被害が出やすくなる時期です。





計画策定の背景

ヒグマについてどんな問題が起きているの？

..... 人とヒグマとの距離が近くなってきています。.....

札幌市の特徴

市街地と森林が
広い範囲で接する

農地面積の減少、
宅地の増加、
森林の回復

侵入経路となり得る
河川・緑地



ヒグマ生息状況の変化

春グマ駆除の
廃止



ハンターの
減少・高齢化



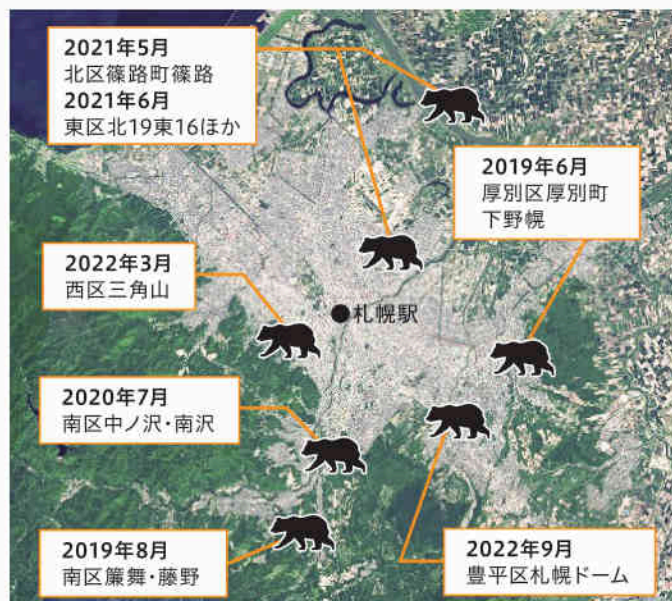
個体数の増加・
分布の拡大

警戒心の低い
ヒグマの発生



..... ヒグマの出没状況も変化してきています。.....

- 市街地やその周辺での出没の増加
- 市町村をまたいだ出没
- 市街地のすぐ近くで冬眠するヒグマの確認（西区三角山）
- 北区・東区など、森林のない区での出没など...



さっぽろヒグマ基本計画 2023 を策定しました！

（計画対象期間：2023年4月～2028年3月）

- 市民の安全・安心を確保したうえで、人とヒグマの共生を目指します
- 共生を目指すため、人とヒグマの「すみ分け」を図ります
- ヒグマによる被害を減らすため、侵入抑制策や出没対応などを強化します

すみ分けのための考え方：ゾーニング管理

ゾーニング管理とは

ヒグマに対する考え方と対策の方針は、場所ごとに異なります。

そこで、市域をいくつかの地域(ゾーン)に分けることで、各ゾーンに適したヒグマ対策を進めていくという考えが「**ゾーニング管理**」です。

都市近郊林ゾーン

- 市街地に近い森林で比較的人の利用が多い
- 低密度化を図り、ヒグマがすみ着くのを防ぐ場所

森林ゾーン

- 市街地から遠い森林
- ヒグマが暮らしている場所

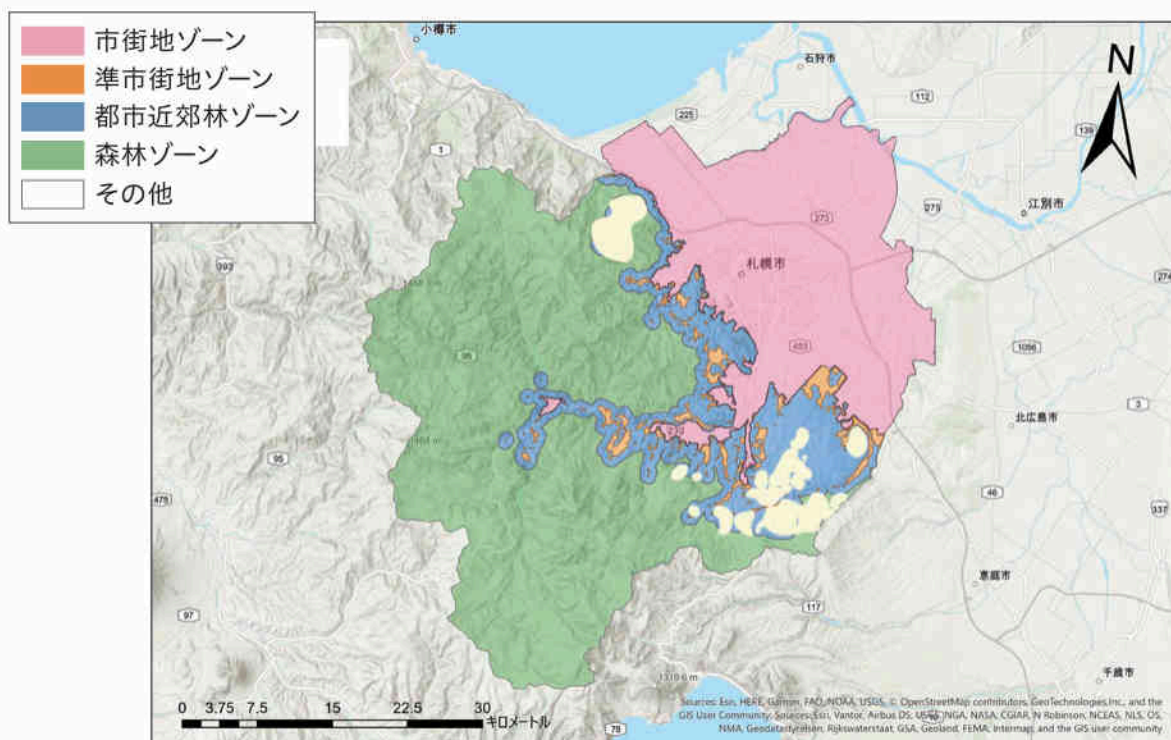
市街地ゾーン

- 多くの人が暮らしている
- ヒグマが入ってきてはいけない場所

準市街地ゾーン

- 農地など人が活動している又は居住している地域
- 誘引物対策をしたうえでヒグマが入ってきてはいけない場所

ゾーニング図



ゾーン区分ごとの考え方と対策例

市街地ゾーン



考え方

- **多くの人の生活圏**であり、人の安全を最優先する地域
- ヒグマの侵入も定着も許容しない

場所

- **市街地や住宅街**
- 森林がない区(北区・東区等)の全域
- 市街地を流れる河川や緑地部分

対策例

- 出没した場合には緊急銃猟等による**捕獲を基本とした対応**
- ヒグマを寄せ付けない対策(ごみの管理)
- ヒグマの侵入を防ぐ対策(草刈りなど)

準市街地ゾーン



考え方

- 農地など**人が活動している又は居住している地域**
- 防除対策を図り、ヒグマの侵入も定着も許容しない
- 市街地に比べ、農作物などヒグマの誘引物が多いため、それらの管理を特に徹底する

場所

- **農地、一部の公園**、集落など

対策例

- **ヒグマを寄せ付けない対策**
(畑等への電気柵設置、放棄果樹伐採など)
- 出没した場合には緊急銃猟や箱わな設置等による捕獲を基本とした対応
- ヒグマの侵入を防ぐ対策(草刈りなど)

都市近郊林ゾーン



考え方

- 自然歩道などが整備され**比較的人の利用が多い地域**
- 市街地ゾーン及び準市街地ゾーンへの侵入を防ぐ緩衝帯としてヒグマの侵入を抑制し、定着は防止する

場所

- **市街地ゾーン及び準市街地ゾーンに接している森林地域**

対策例

- **ヒグマにとって居心地の悪い環境をつくる対策**
(草刈り、緩衝帯整備、捕獲技術者による見回りなど)
- 市街地ゾーンにヒグマが入ってくるのを防ぐ対策
(草刈り、電気柵など)
- 計画的な捕獲等によるヒグマの低密度化

森林ゾーン



考え方

- **ヒグマが生息し繁殖している地域**
- ヒグマの健全な個体数を維持していくべき地域

場所

- 都市近郊林ゾーンより**奥の森林地域**

対策例

- ヒグマを街に寄せ付けない対策(ごみの管理など)
- 登山者などへの**注意喚起**
- 人に積極的に危害を加えるなど特に有害性が高いヒグマについては対応することもある

目指す姿
(ビジョン)

人は街で、ヒグマは森で。

ビジョンと基本目標

人は街で、ヒグマは森で。
～すみ分けによる安全・安心な
暮らしを目指して～

ビジョンを実現するために3つの
基本目標を設定し、様々な施策を
進めていきます。

基本目標① 侵入抑制策の
推進

×

基本目標② 適切な
ヒグマ出没対応

×

基本目標③ 市民の意識醸成

計画全体に係る施策

モニタリングの実施

ヒグマ対策
重点エリアの設定

近隣自治体との連携強化

基本目標① 人の生活圏へのヒグマ侵入抑制策を推進します

施策の方向性① ヒグマの誘引物対策を強化します

- 農作物や家庭菜園の作物等について、早めの収穫や電気柵等の効果的な対策を普及します。
- 家庭ごみや堆肥化された野菜くず、ペットフードなどがヒグマを誘引する可能性のあることを周知するとともに、ヒグマ対策用ごみ保管箱等の設置促進を検討します。



施策の方向性② ヒグマの通り道となり得る緑地の管理を拡充します

- 地域住民や学生と協働で行う河川敷などの草刈り活動やごみ拾い活動を継続するとともに、参加しやすい仕組みづくりを行います。
- 離農などにより発生する放棄果樹の伐採活動を継続します。
- ヒグマ対策にもつながる森林整備のあり方を検討します。



施策の方向性③ ICT等の技術を活用したヒグマ対策を推進します

- ヒグマが市街地への侵入経路として利用する可能性がある河川や緑地等で、自動撮影カメラ等での監視を強化します。
- ドローンなどの最新技術や知見を情報収集し導入していきます。
- ハンターやベアドッグ等による見回りや探索のほか、ヒグマの定着防止の取組を検討します。



施策の方向性④ 市街地近郊等でのヒグマの低密度化を推進します

- 「都市近郊林ゾーン」やヒグマ対策重点エリアに定着しているメスの個体を中心に、問題行動を起こす前に、箱わなを用いるなどして捕獲を計画的に実施します。
- 春期管理捕獲事業により市街地への出没抑制を目指します。また、同事業では、ハンターの人材育成も推進し、将来的な捕獲体制の確保も図ります。

成果指標

「市街地ゾーン」での
出没件数

32件(2021年度)
》16件(2026年度)

農業被害、
家庭菜園被害件数

14件(2021年度)
》0件(2026年度)

基本目標②

市民の安全を第一に迅速かつ適切なヒグマ出没対応を行います



施策の方向性⑤ ヒグマ出没時の体制を強化します

- 出没したヒグマの有害性レベルと、出没したゾーンにより、対応を決定し速やかに実行します。
- ヒグマが市街地に出没した場合を想定して、札幌市や警察、猟友会などがそれぞれどう行動すべきか確認できる仕組みを整えます。
- ヒグマ出没の際の調査における安全対策を強化します。

札幌市、警察、猟友会等での出没対応



施策の方向性⑥ 市民へ迅速かつ的確にヒグマ出没情報を提供します

- ヒグマの出没情報について、ホームページやSNS等のツールを活用し、利用しやすく分かりやすい発信に努めます。
- 緊急時にはSNSのほか広報車等による呼びかけ、報道機関との連携など幅広く発信できる体制を構築します。

LINEでの出没情報配信例



成果指標

人身事故件数

0件

(2026年度まで毎年度)

基本目標③

ヒグマについて考え行動する市民の意識を醸成します



施策の方向性⑦ ヒグマについて学ぶ様々な場を提供します

- ヒグマ講座などの実施数を拡大し、講師役の担い手確保など必要な取組を検討します。
- ヒグマの生態や札幌市のヒグマ対策などを市民が知り、行動に移すきっかけとなるような啓発（パネル展や広報誌での周知）を行い、円山動物園との連携も強化します。

小学校でのヒグマ講座



施策の方向性⑧ 公園やキャンプ場などにヒグマ対策を促す仕組みを構築します

- 公園管理者等を対象にヒグマ対策に関する研修を実施し、ヒグマ対策を自ら実践する機運を高めます。
- 郊外にあるキャンプ場や公園などで管理者が実践するヒグマ対策を支援し、市民が安心してサービスを利用できる仕組みを構築します。

成果指標

ヒグマに出遭わない、寄せ付けない対策を知っている市民の割合

— (データなし)
➤ 70% (2027年度)



計画全体に係る施策

モニタリングの実施

生息状況調査、DNAサンプルからの個体識別により、札幌市内の森林、特に市街地近郊の森林に生息するヒグマの行動や繁殖状況等を把握し、次のような取組に反映します。

- より**実効性のあるヒグマ対策**(どこを重点的に侵入抑制策を行っていくか、など)
- 森林ゾーンでのヒグマ個体数の動向を把握したうえでの、**適切な個体数の維持**に向けた方策検討

🐾 生息状況調査

札幌市では2015年から酪農学園大学と北海道立総合研究機構との共同研究により、生息状況調査を行っています。生息状況調査は「ヘア・トラップ法」と「カメラトラップ法」の2種類を併用しています。

①ヘア・トラップ法

ヒグマの「背こすり」の習性を利用して、木杭やその周囲に張った有刺鉄線等に残されたヒグマの体毛のDNAから、個体識別等を行っています。



②カメラトラップ法

自動撮影カメラを設置して、撮影されたヒグマの模様や色などの身体的特徴から個体識別を行っています。

🐾 出没時のDNAサンプルからの個体識別

ヒグマ出没時の現地調査で収集できた体毛やフンのDNAサンプルから、個体を識別しています。

また、過去に識別したデータを組み合わせることで、そのヒグマのおおよその年齢や行動範囲も知ることができます。



..... DNA分析結果からわかっていること

DNA分析の結果や、過去に識別したデータから、以下のことがわかっています。

- **個体数、分布域が拡大している**
生息状況調査の結果より

13個体

2015年度

» 26個体

2020年度

個体数↑
分布域↑

- **出没に関係しているのは市街地周辺に生息するヒグマのうちの一部である**

農作物等に誘引された個体が出没を繰り返したり、若い個体が市街地等に侵入する傾向があることもわかっています。

ヒグマ対策重点エリアの設定

西区の三角山、中央区・南区の藻岩山とその周辺の山を含む地域を「**ヒグマ対策重点エリア**」に設定し、次の取組を行います。

- ゾーニングの考えによらずヒグマの定着を抑制すべき場所として**侵入抑制策を徹底**
- 山林部分で**ヒグマにとって居心地が悪い環境をつくり**、ヒグマの密度を下げる方策
- **住民や登山利用者などへの普及啓発**

三角山と市街地



近隣自治体との連携強化

札幌市と近隣11市町村で形成する「さっぽろ連携中枢都市圏」の中で、主に市町村をまたいで出没するヒグマ対策を進めるため、以下の取組を行います。

- ヒグマの出没に備え、**近隣の市町村間で情報共有できる体制を整備**
- 市町村をまたいだ生息状況調査や侵入抑制策、圏域の住民の意識醸成



「さっぽろ連携中枢都市圏」とは…

より魅力的なまちづくりを目指し、札幌市と近隣11市町村で形成されたもの。それぞれの「まち」の特性を活かし、密接な連携と役割分担のもと、暮らしや経済に役立つ様々な取組を行っています。



出没したヒグマへの対応

札幌市では、ヒグマが人に対して示した反応のほか、フンや足跡・爪跡などの痕跡の状況、農作物被害の有無といった情報をもとに判断したヒグマの**有害性のレベル**と**出没したゾーン**に応じてヒグマに対する対応を決定します。

有害性判断表

レベル	行 動 内 容 例
I	● 人を見ると逃げる ● 出没時間が主に夜間
II	● たびたび目撃される ● 昼間に目撃される ● 単発的に農作物・ごみ・食料を漁る
III	● 追い払っても逃げない ● 農作物を何度も食害する ● 人目を気にせずごみ・食料を漁る
IV※	● 人間を攻撃した ● 積極的に近づいてくる

※母グマの防衛本能による威嚇や攻撃である場合など例外規定あり

基本対応方針表

ゾーン	レベル			
	I	II	III	IV
市街地ゾーン	● 捕獲(駆除) ● 防除対策	● 捕獲(駆除)	● 捕獲(駆除)	● 捕獲(駆除)
準市街地ゾーン	● 捕獲(駆除) ● 防除対策	● 捕獲(駆除) ● 防除対策	● 捕獲(駆除)	● 捕獲(駆除)
都市近郊林ゾーン	● 防除対策 ● 追払い・見回り ● 捕獲(駆除)	● 防除対策 ● 追払い・見回り ● 捕獲(駆除)	● 捕獲(駆除) ● 防除対策	● 捕獲(駆除)
森林ゾーン		● 防除対策 ● 追払い・見回り ● 捕獲(駆除)	● 防除対策 ● 追払い・見回り ● 捕獲(駆除)	● 捕獲(駆除)

【注意事項】

- (1) 出没したヒグマのレベルと出没したゾーンを本表に当てはめ、該当する内容について上にある項目から実施可能か検討する。
- (2) 「防除対策」は、誘引物除去、電気柵の設置、草刈りの実施等を指す。
- (3) 現地調査は原則、市街地ゾーンと準市街地ゾーンにおいて実施し、都市近郊林ゾーンと森林ゾーンでは必要に応じて実施する。
- (4) ここに掲げる方針は原則的なものであり、出没状況によってはこの限りではない。

市民の皆さんへのお願い

- ヒグマに関する情報を積極的に調べ、**ヒグマについて正しく理解**しましょう。
- ヒグマを目撃したり足跡やフンを発見したりした場合は、速やかに**110番へ通報**してください。
- こまめに**最新のヒグマ出没情報を確認**しましょう。
- ごみ出しのルールを守りましょう。
- 家庭菜園や果樹の作物等は、電気柵で囲うなどヒグマに食べられない対策をしましょう。

札幌市が実施する活動・イベントへの参加をお待ちしております！

山でヒグマに出遭^あわないために

- 事前にヒグマ出没情報を確認しましょう。
- ごみは必ず持ち帰りましょう。
- 単独行動は避け、音を鳴らしながら歩きましょう。
- ヒグマの足跡やフンなどを見つけた場合は、速やかに引き返しましょう。

出遭^あってしまったら

- ヒグマの動きを確認しながら、ゆっくりと後ずさりして立ち去りましょう。
- 大声を出したり、走って逃げたりしないようにしましょう。
- 子グマを見つけたら、近くに母グマがいる可能性が高いため、すぐにその場から立ち去りましょう。



ヒグマ出没情報

札幌市では、公式LINE及びホームページで「ヒグマ出没情報」を配信しています。

● 札幌市公式LINE

<https://www.city.sapporo.jp/kurashi/animal/choju/kuma/linehaishin.html>

● 札幌市公式ホームページ「ヒグマ出没情報」

<https://www.city.sapporo.jp/kurashi/animal/choju/kuma/syutsubotsu/index.html>

LINE
「友だち登録」
はこちら↓



札幌市公式HP
「ヒグマ出没
情報」



ヒグマのことをもっと知りたくなったら…
札幌市公式ホームページを見てみましょう！

札幌市 ヒグマ対策



<https://www.city.sapporo.jp/kurashi/animal/choju/kuma/index.html>



山でヒグマに 出遭^あわないためには？

① ホームページなどで最新情報を調べる

ヒグマが出没する可能性の高い時期・時間・場所には立ち入らないようにしましょう。



札幌市 ヒグマ

検索

<https://www.city.sapporo.jp/kurashi/animal/choju/kuma/syutsubotsu/index.html>

② 音を出す

一般的に、ヒグマは人を避けて行動しています。

鈴やホイッスルなどで音を鳴らして、ヒグマに人の存在をアピールしましょう。

※鈴やホイッスルがない場合には、手を叩く、大きな声を出すことでも効果があります。

クマよけ鈴

ホイッスル

③ 痕跡を見つけたら引き返す

ヒグマの足跡やフンなどを見つけた場合は、速やかに引き返しましょう。

見つけた時に やってはいけないこと



大声を
出さない



石を投げたり
しない



走って逃げない

(逃げると追いかける
習性があります)



近づかない

(母グマが近くにいる
可能性がありますが)

- ヒグマの性格は個体ごとにさまざまです。
- 上記の対処法が、必ずヒグマとの事故を防いでくれるとは限りません。
- ヒグマとの事故を防ぐためには、「**ヒグマに出遭^あわないこと**」が**最も重要**です。

さっぽろヒグマ基本計画2023(概要版) 2026年9月発行

札幌市 環境局 環境都市推進部 環境共生担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎12階

TEL011-211-2879 FAX011-218-5108

